

学校現場を支える 教育情報化コーディネータの役割と ITCe検定の実際～

金沢大学研究生

野々市小学校 正來 洋

情報教育の位置づけのために

ソフトウェア

現場における情報教育，教育情報化の推進
カリキュラム作成，授業の改善

ミドルウェア・OS

コーディネートする人材

ハードウェア

教育ネットワーク整備
教育メディア環境の整備...等
インフラの整備

理念と現実

- 制度的裏付けは、まだこれから
- 先進的な配置・実践地域がすでに存在
- 現在は教育情報化コーディネータの本格的普及の直前 = 過渡期

価値 = 先駆的事例の分析は本格的なITCE配置普及期における貴重な知見となる

コーディネータとしての現実的課題

- 役割が未分化 行政や現場の理解を得るには？

行政への対応をどうすべきか？

コーディネータとして**役割や権限**はどうあるべきか？

- 現場の実態... 進むインフラ整備

But スキルや意識の格差

学校現場との対応は
どうあるべきか？

情報教育推進の重点は
どこに置くべきか？

地域間・学校間・
指導者間の格差

コーディネータ活動の二事例

○ T県M郡 N氏

自治体の枠を超えたコーディネータ配置を実現した先進的地域の事例として

○ I県K市 M氏

明確なビジョンを持ち地域の情報化に取り組み始めたコーディネータの事例として

活動の背景と課題

T県N氏

平成12年度より郡と県の合意により地区の小学校教諭から抜擢。情報加配教諭身分のまま、地域指導にあたる。担当学校数 約60校

I県M氏

平成14年度より、K市教育センターに指導主事として、抜擢。小学校教諭から転任。担当学校数 約40校

地域の情報教育を統括する
コーディネータとしての
地域・行政からの期待大



行政への対応

T県N氏

I県M氏

現行教育ネットワーク
インフラの維持管理

- 教育ネットワークセンター運営
- 担当地域・学校のネットワーク整備、維持管理

将来的な教育ネットワーク
インフラ整備
のビジョン策定

現行教育ネットワーク
指定期限迫る。
次期構想策定と予算措置
獲得アピール

共通点

行政への対応

行政のニーズの把握

- 情報ネットワークの整備・管
- 教育の情報化・情報教育の推

活動成果の積極的なアピール

- 行政への成果アピールは
次の活動への支援・予算確保

行政・教委の
ニーズの把握
成果のアピール

コーディネータ
活動への理解を
引き出す

上部情報の
的確な把握
発言力の確保

情報化
情報教育の推進

学校現場との対応

T県N氏

I県M氏

現場支援の徹底
(授業・技術支援)

出前活動でネットワークの
メンテナンス、
トラブルシュート
授業のサポート
(事前準備、TT等)

センター研修講座の
拡充と充実

希望者全員に対応できる
研修講座計画

地域の実践リーダーを研修
講師に (リーダー育成)

現場支援体制の確立努力
ヘルプデスクの活用

ドバイザの
と活用
スキルアップ
器保守管理体制
重視

共通点

学校現場への対応

学校現場の状況の正確な把握

- 頻繁な学校訪問
(年間1400時間、1学期に70回)

- 対応の速さとの確さ

学校現場のニーズへの対応

- 情報教育推進の環境作り
- 情報化の推進



現場からの信頼

教員の本務外の
負担軽減

かゆいところに
手が届くサポート

コーディネータ
活動への信頼と理解
V1・V2

情報教育推進の重点

T県N氏

I県M氏

本格的なITCe制度の
普及への期待

自らITCe 2級資格を取得

校内推進リーダー（ITCe 3級
レベル）の育成の公的な保証
を希望し、各方面にアピール

各地区の
実践リーダー集団の育成

地区ごとのコアメンバーの選出

複数の情報教育プロジェクト
立ち上げ
県管轄のプロジェクトへの推薦
地区リーダー要請に優先対応

共通点

情報教育推進の重点

- 地域情報教育サークルを主宰
 - 地区の実践的・技術的リーダーの育成を目指して...
 - TTによる授業支援
 - 授業研究会で助言

**「広める」
指導者の育成**

正しい情報教育
の認識と
実践のできる
リーダー集団
作り

コーディネータとしての 資質・権限

T県N氏

I県M氏

最新の情報教育トレンドをつかむ自己研修

広く国内の情報教育研修会に積極的に参加
情報教育の全国プロジェクトへの積極的参画

V3

指導主事としての権限の重要性

県レベル会議への出席が可能
市の行政組織への要請・陳情が容易なポジション

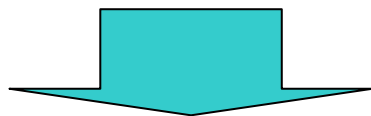
教科指導主事兼任の時間的負荷

共通点

コーディネータとしての資質・権限

情報収集のために

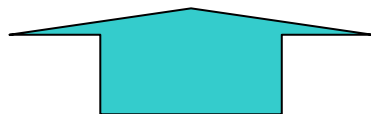
行政、教育委員会、管理職との意志の



教員出身コーディネータとして

学校現場の実情の的確な把握
授業指導に関する知見の蓄積

過渡期の
現状から



問題へ柔軟な対応のため

学校現場への頻繁な訪問、文

活動の
柔軟性と専門性

コーディネータ
としての
バランス感覚の
重視

制度化への動き

- 2001年度より J A P E T による検定試験
制度スタート
 - 3級 学校におけるリーダ資質
 - 2級 自治体レベルのリーダ資質
 - 1級 全国レベルのリーダ資質
- 資格取得者の増加
 - 3級...350名余 2級...70名余
 - 1級...検定未実施（2級実務経験者から選抜）

ITCe2級2次検定の実際

今年度の2次試験課題より ... **資料参照**

- ある小学校の情報化
- 利用度の低い既存のコンピュータ20台余
- 職員「使い方がわからない」「授業？」
- 空き教室への多様な利用形態を想定したコンピュータ環境の新規導入を提案せよ！
- 予算は300万円（実売ベース）

企画書・予算書・企画プレゼン作成 & VTR撮影


面接による口頭試問...

	Windowsサーバ導入	新PC室のインフラ整備	MSスクールアグリーメント契約	新PC室のマルチパーパス化	職員研修(教育の情報化)	職員研修(情報教育推進)	既存PC室の利用形態の提案
1「パソコンの使い方がわからない」		ノート10台当面は職員兼用	ソフトウェア環境と統一によるOJT促進		研修講座(利用教育)		
2「パソコンを利用した授業に具体的なイメージがわからない」				調べ、まとめ、伝える授業形態への対応 交流学習対応	プロジェクト利用、外部教材リソース利用	元吉原小、 暁小カリキュラム	
3「自分の持っているパソコンとソフトが違う」	機種の違いを吸収できるサーバOS		ソフト統一によるMAC,WINの相違の吸収				
4 PC室が使われていない、鍵がかかっている利用イメージを！							休み時間の開放 児童PCリテラシーアップのためのドリルのためのソフト等導入
5 新PC室マルチな利用イメージ、図書館との連携を考慮		テレビ会議ソフトとハード無線LAN対応		隣室図書館との連携、役割分担(書架、図書分類と移動) 移動機配置による柔軟な空間利用		同左	
6 次年度要求		職員用PCの導入 教育の情報化対応	ライセンス継続予算	消耗品費	情報教育アドバイザー獲得 リテラシーアップ講座	ITCeによる継続的な研修開催	

検定評価観点

- (1) 全体構想・企画力 (主として提案書)
- (2) 説明・表現 (主としてプレゼンテーション)
- (3) 対応・知識。経験 (主として面接)
- (4) 総合判定

各項目 A～Dで判定 B以上で規準クリア



学校現場を支える 教育情報化コーディネータの役割と ITCe検定の実際～

ご静聴ありがとうございました。

金沢大学研究生

野々市小学校 正來 洋